



東京部会(第42回)

日時:	2011年10月18日(木) 19:00-21:15
場所:	日本大学経済学部7号館13階会議室
参加者:	篠原(同志社大)、加藤(日大)、新井(小石川中等教育)、大倉(松戸向陽高)、杉田(千葉西高)、高橋(桜修館中等教育)、長谷川(桜修館中等教育)、宮崎(浦和高)、升野(筑波大付属中)、山崎(北海道豊富高:筑波大院)、神尾(第一学習社)、宮尾(筑波大)[順不同]

【内容要旨】

1. 篠原先生より、11月12日に札幌部会が立ち上がる予定であることが報告された。また12月3日の全国大会(総会)では「経済と法」をテーマとして、中川先生が基調講演を行い、新井先生を中心にシンポジウムが企画されることになった。詳細はできるだけ早くウェブにアップし、大阪・東京の部会メンバーを通じて参加者を募るとともに、はがきでも連絡する予定。さらにワークショップについては、12月8日に福井で高校向けに行われることになり、篠原先生と野間先生が参加する予定であることが報告された。
2. 新井先生より、配布された「東京部会レポート」に沿って、以下の報告と討論があった。(1) 夏の教室の後始末: 飯田講演と大田講演の記録が完成し配布された。また来年の夏の教室について、7月末から8月にかけて暫定的な日程が示された。(2) 今年の入試問題プロジェクト: 対象大学を絞ってじっくり検討する方針。現場の高校担当者と大学の経済学担当者による複眼的評価ができればベスト。(3) 12月総会の内容: すでに上で報告された通り。(4) その他: 経済セミナー連載は、高校が10・11月号(川瀬先生担当)で完了し次回は中学の実践についてで升野先生担当。10月1~2日の経済教育学会(名古屋)には、高橋、金子、新井、松井、栗原、猪瀬の諸先生が参加された。また、10月22~23日の社会科教育学会(札幌)には、山崎先生、新井先生などが参加し、発表する予定。
3. 引き続き新井先生より(東証の石山さんから寄せられた情報として)、京都大学の経済学者でこれまで高校の教科書執筆などにも携わった先生が今年の滋賀で講演したパワーポイント資料「経済教育のガラパゴス化」の紹介があった。そこでは、日本の高校でも大学でも経済学教育が国際的(米国の)基準からすると遅れており不十分であることが、特に高校の教科書の内容を批判しつつ指摘された。基本的な主張は、マルクス経済学的内容や説明はすべて排して、もっと市場での価格の決定と為替市場や金融市場での実際の働きなどに重点を置いて教え、国際金融危機のような現実問題も取り上げるべきというもの。
パワーポイントの資料紹介後に内容についての検討が行われた。一つの問題として、市場での価格の決定などの動きについてもっと説明し理解する必要があると主張しながら、価格のメカニズムの重要なポイントである効率性や最適資源配分について全く言及がないことが指摘され、現状を「ガラパゴス化」と糾弾する前に、もっとしっかりとした経済学の議論を提示すべきという指摘があった。さらに、市場のメカニズムと効率性の議論を高校のレベルでどう分かりやすく教えるかが大きな課題であるとの指摘もなされた。
4. 以上の議論に関連して、宮尾より配布資料「価格のメカニズムで電力不足を解決? : 学生たちの



反応」の説明と質疑があった。配布資料については、「オープン討論室」

(10/15: No. 432) 参照：<http://seadog.gifu.shotoku.ac.jp/econ-edu/bbs/index.html>

さらに、効率性の理解に関して篠原先生からもコメントがあり、参加者から多くの質問が出されたので、宮尾がより分かりやすく、高校の教材としても使えるような内容のものを準備して、次回の東京部会の前にメールで参加者に送付し、質問やコメントを受け付けることになった。

5. 時間の関係で十分に議論する時間はとれなかったが、中川先生の資料「法と経済学の視点からみた『政経』の法教育」、および高橋先生の資料「限界革命についての相談・お願い」が配布され、それぞれ各人が目を通すことになった。

(文責：宮尾尊弘)

次回開催予定：11月22日(火)19:00～21:00 場所は日本大学経済学部7号館13階会議室3

議題 12月の大会などについての事務連絡
山崎先生の実践授業の報告、宮尾・篠原先生による議論の続き
その他